

プロジェクト課題No.1

市場等ニーズに応じた花き・花木生産 による経営発展

対象名：株式会社南三陸Pine Pro(パインプロ)

計画期間：令和3年度～令和5年度

担当チーム員：◎須藤，平，高橋，猪野



露地栽培の小ギク



枝もの用クロマツ

課題対象(株)南三陸 Pine Proとは？



個人経営でキク類の栽培
栽培歴30年以上のベテラン



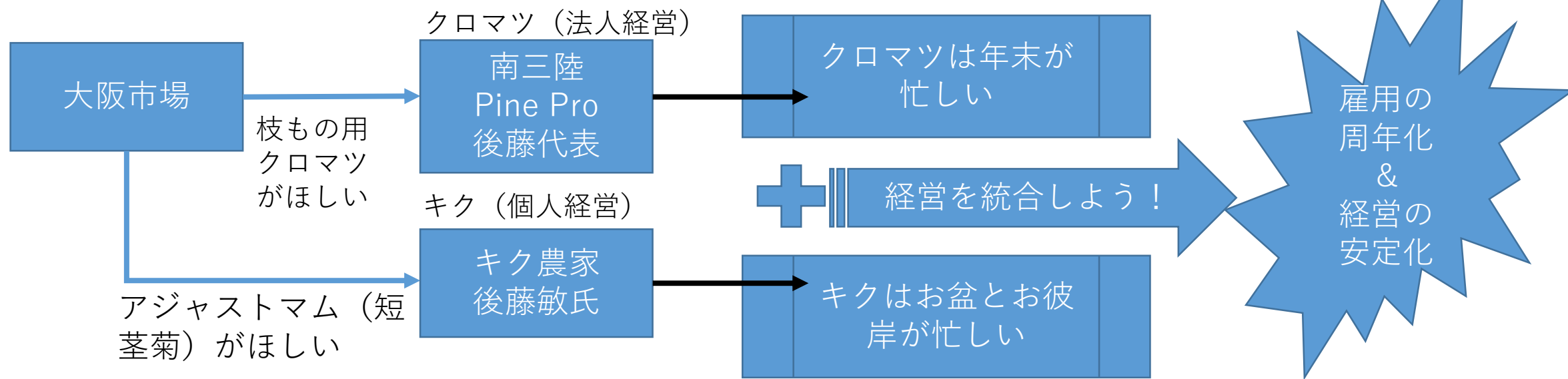
法人経営でクロマツの栽培
平成30年から栽培スタート



(株)Pine Pro代表 後藤敏氏 (66歳)
【JA広報誌 新みやぎのわ・わ・わ
8月号より転載】

1 課題の背景とねらい

- クロマツの収穫作業は10月～11月，出荷は12月のみと収入時期は限定的である。対象法人では周年での雇用を可能とし，経営の安定化をはかるため，個別経営で取り組んできたきく部門を法人経営に導入することを検討している。市場からの需要が大きい2品目を組み合わせ，法人経営の安定化を図るとともに，両品目の生産モデルとなり，町内外へ波及・生産拡大を担いたいと考えている。



2 これまでの活動内容(トピックス)

- 園芸推進課担当者, 対象法人代表, 普及センター3者で出荷調製施設等導入打合せ

(事業申請の内容, 申請時期について3者で話し合い)

- 施設等導入の入札会実施

(南三陸町農林水産課・農業委員会の協力で開催, JAは機械導入に入札参加)

- 大阪花き市場の「株式会社なにわ花いちば奥田社長」来県

クロマツの生産拡大に向けた打合せや生育中のクロマツの視察を行った。

(なにわ花いちばでは, 宮城県でのクロマツの産地化に期待しており, 150ha規模の産地になってほしいと要望があった)



南三陸町でのクロマツ栽培面積
令和3年度まで⇒2.44ha
令和4年度の増加面積⇒0.6ha
合計3.04ha

3 これまでの活動と成果1

- 5月:クロマツ播種見学・栽培研修会の開催

(県内の栽培希望者を集めて播種の実演会を実施 農業者22名, 関係者22名参加)

⇒ 電動播種機の導入や発泡スチロール箱を利用した育苗を
検討するようになった

種を手まき

まいた種に土を被せる



ICT農業やスマート農業と
言われている令和の時代にこ
の作業はどうだろうか？

電動播種機の
利用, 別の場
所で育苗はで
きないか？

これなら楽そうだぞ！



3 これまでの活動と成果2

- 7月:クロマツ先進地視察研修会の開催

(茨城県のクロマツ生産者の施設やほ場を見学 農業者8名, 関係者2名参加)

⇒ 先進地の出荷調製施設を見学し, 新たな出荷調製方法を学んだ



この選花機を3台並べて, 松の全長, 太さ, 穂先の長さで分類するんです。



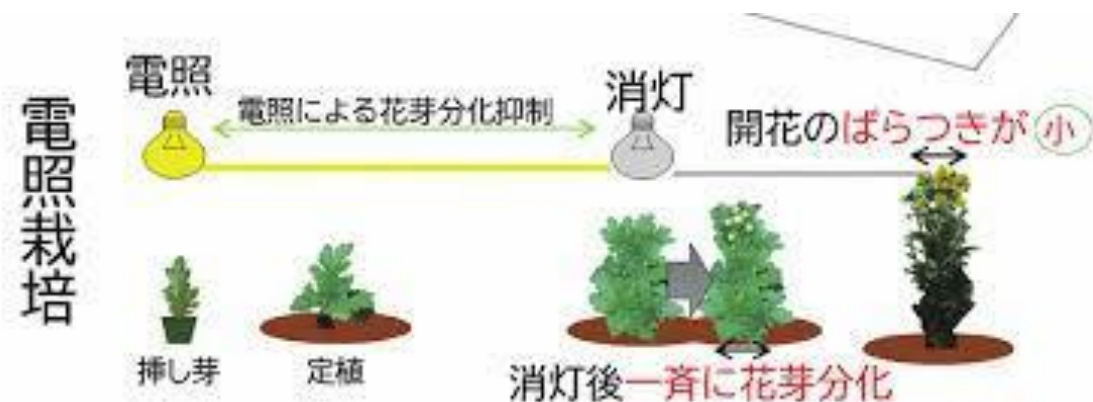
この棚いいよね！
整理しやすいから
真似しよう。

3 これまでの活動と成果3

・8月:キク類電照栽培の収穫及び切り花調査

⇒南三陸町のお盆出荷に適した品種選定ができた。

○電照栽培とは電灯照明を利用し成長の促進や抑制を行い，収穫期をコントロールする栽培方法。



今回の栽培試験は，お盆出荷用のキク類を5月上旬に定植し，赤色LEDを22:00から3:00まで5時間電照，6月10日に消灯。



農業・園芸総合研究所花きチームから輪ギク2品種，小ギク5品種，SPギク4品種，合計11品種を提供してもらい試験した結果，小ギクの「精はなば」が7月下旬から開花し，もっとも南三陸町に適していることが分かった。

4 今後の対応

- 地域に適したクロマツの栽培技術が確立され、出荷量が増大するように、播種方法，育苗方法，初期雑草防除方法，出荷調製方法について検討を進める。
- 対象法人が安心して、きく栽培を導入し需要期に安定出荷が可能となるように、現地試験の成果を取りまとめ提供する。
- 昨年度のクロマツ出荷規格は20種類あり，選別に時間がかかったので，今年度は選別が楽になるように，市場を交えて出荷規格の検討を行う。



除草剤の適用拡大にむけた打合せ



開花時期の把握，長さ等を調査

最終的には、対象法人を茨城県の先進農家（ミゾグチファーム）のように儲かって、後継者が定着する組織経営体に成長させていく。

5 対象者からのご意見

昨年度から県事業を使った設備等の導入を支援してらもっており感謝している。

今年度は本格的なクロマツ収穫の年なので、皆さんの期待に応えられるような成果を上げたい。



今年収穫予定の
クロマツです！